ソチカルコ皆既日食観測紀行　　西山峰雄

「前川先生と行く皆既日食と遺跡の旅」は古代文明研究会と横浜天文研究会共催で男９人女１３人平均年令５８才の構成、これに現地参加４名が加わりましたが、７月９日出発、１８日帰国、メキシコ３泊ビヤエルモッサ１泊メリダ２泊メキシコ２泊という予定で日食観測地はメキシコ市の南南西 140kmのソチカルコ、アステカ時代の最古の天文台跡といわれる土地を選びました。西経99度18分北緯18度49分位かと思われます。前川光団長、荒木雄豪教授、冨永智、玉城美智子、松浦明美それに私達夫婦が日食経験者でした。大阪の日通旅行梅田支店の70人位のグループが成田出発時に同じソチカルコに行くのに出あいましたが、顔見知りの方はいらっしゃらなかったように思います。早く良い所に陣取られたのか、現地では会えませんでした。ソチカルコに集まったのは私の目で１万人（発表は２万人とか）、テオティワカンのピラミッドには３万５千人という新聞記事でした。米国など外国人は１割までは居なかったと思います。現地では日食に関する宗教儀礼が白地に赤の衣裳を着たインディオの祭官により取り行われホラ貝が高らかに吹き鳴らされていました。この儀礼は各所で行なわれたようでメキシコ国内22ヶ所から取材したＮＨＫの衛星放送でも紹介され、私のビデオにも音だけ入っています。

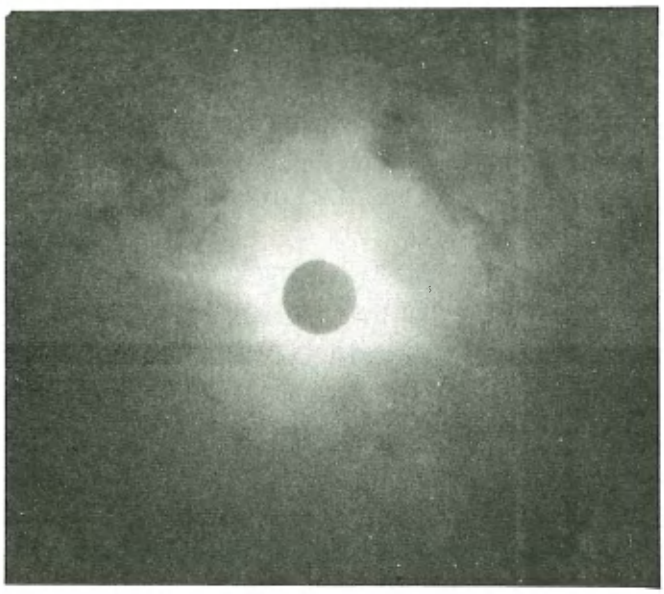
ソチカルコに行くのに混雑の様子や渋滞の程度が分らないのでホテルを7:59と早目に出てメキシコ大統領の車も追いぬいて登山道の下には 10:06に着いたのですが、遺跡の入口には駐車場がないため４km程手前地点からシャトルバス16台がピストン輸送しておりました。聞けば前夜から既に実施しているとのこと。メキシコという国はこういう情報を出発前とか前日に聞出すことはなかなか難かしいようです。数台待って 10:26乗車、隣席の米国の美少女エミーさんと話す暇もなく遺跡入口に 10:36着。遺跡入場料10,000ペソ(500円) 払って行列作って登山です。人影少ない遺跡で静かに観測したいと思っていたのにとんでもない、遺跡の頂上はＴＶ局と宗教儀礼の場所に占領され、我々は動物の糞がいっぱいで人の来そうにない東北部の中腹の一隅 500㎡ほどの平地に陣取りました。機材を設置したのは４人だけですが、それでも他人が入ってこないように紐を張って赤布をぶら下げて三脚を蹴とばされないように用心する必要がありました。設置者以外は遺跡と宗教儀礼の見学後、早目に幕の内弁当で腹ごしらえです。ソチカルコは海抜1400m,メキシコは 2240m, 途中 3500mの峠を越すときは雨でした。雨期のせいで前夜前々夜ともに１時間余り雨でした。観測中は終始雲が飛び交い第１接触(11:54) は見難く、皆既中はうろこ雲が中層にあり、13時21分35.8秒～28分01.0秒（予報値）の６分間の内前半の方がやや雲が薄く、コロナは太陽半径の４倍位までは見えましたが、それ以上は分らず、マックホルツ彗星やクロイツ属彗星どころか恒星も雲で見えず、金星木星シリゥスを認めただけでした。雲によるコロナ光の散乱のためか、そもそも天空のチリが多かったのか、太陽高度が８０度と高いためか、（月の影は 270kmと大きいのに）パレンバンの時よりかなり明るく感じました。後半の雲の濃化は気温低下による日食雲ではなかろうかと前川団長の意見です。余談ですが私の失敗は太陽高度が高すぎて東西方向が良く分らなかったことです。冨永さんの磁石を借りたのですが感覚と合わないので自分の思う方向にしていたところ第２接触直前になって雲台が調節不能位置に来て慌てて三脚からセットし直しました。彗星探索はダメでしたが初

参加の人々は十分満足していました。遺跡見学だけが目的で来た人々にもコロナとそれに続く目を射すようなダイヤモンドリングは予想外の大衝撃を与えたようで、こんな奇麗なのを見たからもう死んでも良いという人、皆既日食を見にたやすく行ける機会があれば、じっくり準備してこの感動をまた味わいたいと洩らす人など様々でした。ダイヤモンドリングは塩田和生さんの予測通り第３接触は14秒位長く続きました。なお、ソニーの８ミリビデオ TR-75でズーム一杯の固定でコロナを撮りましたが肉眼で見たと同程度の形は撮れました。しかし、色はうまく出ません。プロミネンスすらも。この機械は花火にも色はだめです。部分食では ND400+ND8のフィルタでスチールカメラには間に合ったのですが、ビデオには薄過ぎました。ND400 ２枚かけても良かったかなと思っています。

皆既の感激が去ると遺跡めぐりの人達は次の見学に行こうと言うし、冨永さんは最後まで連続写真を撮ると言うし２組に別れました。しかし、14:10 遺跡を出るとシャトルバス待ちの長蛇の列、皮肉なことにカンカン照り、この間コーラを何本飲んだでしょう。全部汗になって出てゆきました。結局バスに乗れたのは 15:22と復円(14:48) 後でした、その時まだ2000人は並んで待っていたでしょう。歩いて下山した人も多数おりました。帰途我々は太閤秀吉時代長崎で処刑された26聖人の絵があるクエルナバカの教会(16:00～16:20)などを見て17:58 ホテルに帰着。冨永さんは最後のシャトルバスで20時頃ホテルへ帰って来ました。

メキシコを通るこんな好条件の日食は2162年までないということで、メキシコのこの日食にかけた力は相当なものです。Revista Oficial には観測に来た56学術グループ（日本はPopocatepetlに磯部琇三先生、Campas UABCSに黒河宏企、末松芳法、久保良雄各先生の４グループ）が掲げてあり、新聞雑誌パンフレット解説書など町に溢れており、部分食を肉眼で絶対に見るなと徹底的に放送と新聞でＰＲ，小学生には直接見ずにＴＶで見よと指導していました。これは千歳一遇のコロナの色を見せないことになるわけで一寸残念なことと思いました。我々のガイドさんが家に帰ってコロナを見たと言ったら子供が心配して医者に行けと奨めたそうです。夜と翌朝のTVニュースも数分間ずつ、翌日の新聞は数ページも裂いて写真や記事、エピソードを出していました。ハワイの報道は全く見当らず15日にハワイからの電話で初めて殆ど全滅だったと聞いた次第でした。メキシコ空港では無料配布の「日食観測に来た方々へ」というB4の注意書と解説があり、裏面に入国手続の案内が書いてありました。空港ロビーでは40種程の日食ポスターの展示会をしており、一枚宝籤のを入手、記念切手も1000ペソ＋1500ペソ＋1000ペソの３種１組、１シート12組のきれいなのを出していましたので斉藤中村両先生への不首尾報告のハガキに貼りました。切手の太陽の面にはマヤかアステカかの絵記号が描いてあります。他に町では日食Ｔシャツも10種類位売っており、観測用サングラスも九州のにわか煎餅のお面のように目の所だけに10mm丸の蒸着フィルムをはめ込んだものなど売っていました。

今回 260日暦のマヤについてはあまり収穫がありませんでしたが、人類学博物館と国立宮殿でアステカ人が描いた星の図があることを知りました。星座８種類ですが何だか分りません。もう少し集めてみたいと思っています。遺跡めぐりは太陽のピラミッド、月のピラミッド、金星天文台など毎日数百段の階段で大汗をかきながら古代を偲びました。



Total Solar Eclipse (cloudy) at XOCHICALCO, MEXICO.
1991,July 11. 13h25m(Mexico Time) fl 270mm F9
by Minewo Nishiyama

メキシコ日食の記念切手